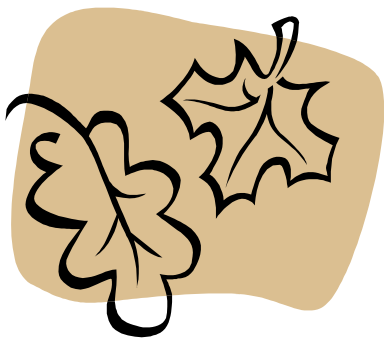
農学実験Ⅳ

多摩水道橋上流左岸で
11月5日に見られる植物



アカザ　アカザ科

☆今の時期は花期が終わって，結実している状態です．

アカツメクサ
マメ科

☆少数ですが開花も見られました．外来種です．

アレチウリ　ウリ科

☆各地で問題になっている外来種です．果実は素手で触ると，とげが刺さり，皮膚の中で折れることがあるので，できる限り触らないほうがよいでしょう．

イ　イグサ科

☆もっとも和名の短い植物です．湿った場所に生育します．畳表に使うのは，本種の栽培品種です．

イヌタデ　タデ科

☆道端でもしばしば見かける植物です．葉鞘のふちに毛があります（下）．

イノモトソウ

イノモトソウ科

☆よく似たオオバイノモトソウや，マツザカシダとは，小葉と小葉の間の葉軸に翼があることで区別できます．

ウマノアシガタ

キンポウゲ科

☆葉や葉柄には太い毛が多く生えています．

イタドリ

タデ科

☆至るところでよく見かけます．

エゾノギシギシ

タデ科

☆ギシギシに比べて葉や葉柄が赤く色づき，ふちの波打ち方は細かいです．しっかりと同定するには果実の周りの翼の形を見る必要があります．

オヒシバ　イネ科

☆小穂が外側に開いて付いているため，メヒシバに比べて花序がいかつい印象を受けます．また，メヒシバの茎が丸いのに対して，本種は扁平です．

オオオナモミ

キク科

☆果実（写真下）には，先がかぎ状に曲がった棘があり，衣服や動物の毛に引っかかります．

オオバコ

オオバコ科

☆道端で非常によく見かける植物です．

オオアレチノギク

キク科

☆ヒメムカシヨモギとは，舌状花の花弁が小さく目立たないこと（写真下），茎や葉には短い毛が密に生えていること（図鑑などではしばしば「ビロード状」と表現される）で，区別できます．今回実習を行う場所では，本種の方が数は少ないです．

オオイヌノフグリ

ゴマノハグサ科

☆葉は対生し，葉のふちには鋸歯があります．

オオカナダモ

トチカガミ科

☆各地で大繁茂して問題になった植物です．コカナダモとは，輪生葉の数が多いことなどで区別できます．

カゼクサ

イネ科

☆道端で非常によく見かける植部です．小穂の下５㎜ほどのところに黄色のリングがあります．よく観察してみてください．

オオフサモ

アリノトウグサ科

☆水中の葉と水上の葉は形態が異なり，水中の葉は柔らかく，透明な緑色で，水上の葉は緑白色です．沈水型はホザキノフサモとよく似ていますが，若干いかつい印象を受けます．

オギ　イネ科

☆ススキと似ていますが，株にならず，茎が地面から1本1本生えること，本種は芒がないことで，区別ができます．今回実習を行う場所では，ススキは多くありません．

カタバミ

カタバミ科

☆道端に普通に見られます

カナムグラ　イネ科

☆雌雄異株です．葉は硬い池毛が生えています．茎には下向きの刺が生えており，これが他のものにからみつく仕組みですが，素手で触ると怪我をすることもあります．

カラムシ

イラクサ科

☆葉は互生し，表面にはビロード状の毛が生えています．

ガマ　ガマ科

☆雄花群と雌花群が接していること，葉の幅が広いことでヒメガマと区別でき，葉の幅が広いこと，葉の質が硬いこと，花粉を顕微鏡で観察すると，4粒ずつくっついていることで，コガマと区別できます．

ギシギシ　タデ科

☆よく似た外来のギシギシ属の種に比べ，葉は鮮やかな緑色で，葉縁は大きく波打ちます．

キシュウスズメノヒエ　　イネ科

☆各地で問題になっている外来種です．水面に浮かぶようにして茎を伸ばします．

キンエノコロ

イネ科

☆小穂の基部の毛が金色であること，小穂をルーペで観察すると，横縞の模様があることが特徴です．

クコ　ナス科

☆中華料理の食材として有名です．今回実習を行う場所では，水面から離れた場所に多く生育しています．

コマツヨイグサ

アカバナ科

☆地面を這うように生育することが多いです．葉縁には鋸歯があります．

クズ　マメ科

☆至るところで見かける植物です．葉は3出複葉です．

サンカクイ

カヤツリグサ科

☆名前の通り，断面は正三角形です（写真下）．カンガレイとは，小穂に柄があること，桿が地面から1本ずつ生えることで区別ができます．

ケアリタソウ

アカザ科

☆葉をもむと独特のにおいがあります．今回は見つかりませんでしたが，多摩川では小型のゴウシュウアリタソウもしばしば見かけます．

コセンダングサ

キク科

☆アメリカセンダングサとは，果実（写真上）の幅が狭く，線形であること，小葉が幅広く，ずんぐりしていることで区別することができます．

シバ　イネ科

☆今回実習を行う場所では，多摩水道橋付近に，わずかに生育しています．

シロツメクサ

マメ科

☆至るところで見られる外来種です．

スギナ

トクサ科

☆ツクシは本種の胞子茎です．

シナダレスズメガヤ
イネ科

☆緑化用の植物として使われたものが逃げ出した外来種です．葉の幅が非常に狭く，ふさふさした印象を受けます．大きな株をつくります．

シマスズメノヒエ
イネ科

☆在来のスズメノヒエの小穂が2列であるのに対し，本種は4列に並びます．また，在来種は黄色と紫の葯をつけるのに対し，本種の葯は紫色のもののみです．

スイバ　　タデ科

☆ギシギシ類とは，葉が矢尻型で，葉身と葉柄との区別が明瞭であることで区別できます．茎を噛むと酸っぱい味がするため，“ 酸い葉 ”といいます．

セイタカアワダチソウ　　キク科

☆至るところで見られる外来種です．葉には先に向かう毛が生えていますが，この毛がないものをオオアワダチソウといいます．今回実習を行う場所では，幼植物体も多く見かけました．開花個体の葉の手触りを覚えておくと，容易にそれがセイタカアワダチソウであるとわかります．

セイバンモロコシ

イネ科

☆非常に大型になる外来植物です．花序はトウモロコシによく似ています．

セリ　　セリ科

☆春の七草のひとつとして有名です．湿ったところを好み，時には水中に生育していることもあります．

チカラシバ

イネ科

☆引き抜いても簡単には引き抜けないことが名前の由来です．紫色の花序が美しく，園芸店で出回ることもあります．

チャガヤツリ

カヤツリグサ科

☆花序が枝分かれせず，まとまって付くことが特徴です．

ネズミノオ

イネ科

☆花序の形はまさにねずみの尾のようです．今回の実習を行う場所では，堤防近くに多く生育しています．

ノイバラ

バラ科

☆テリハノイバラとは托葉が櫛の歯のように細かく裂けることで区別することができます（写真下）．

ヒガンバナ

ヒガンバナ科

☆花が有名ですが，結実はしません．地下には鱗茎があり，花が終わった後に写真のような中央に白い筋の入った濃緑色の葉を出します．

ヒメガマ

ガマ科

☆雄花群と雌花群の間に隙間があり茎が露出すること（写真の緑色の部分）で，他のガマ属の種と区別ができます．

ヒメムカシヨモギ

キク科

☆オオアレチノギクとよく似ていますが，舌状花が目立つこと，茎や葉に生える毛がまばらで長いことで，区別することができます．今回の場所では，オオアレチノギクに比べて本種の出現する割合が高いようです．

マコモ　イネ科

☆水辺に抽水状態でよく生育している大型の植物です．葉身の付け根が特徴的です（写真下）．

ミゾソバ　タデ科

☆水辺において，しばしば群生する植物です．葉の基部が耳型に突き出すことが特徴ですが，今回の場所に生育するものは，あまり突き出してはいないようです．

ミツバツチグリ

バラ科

☆･･･と種名を書きましたが，この状態では，ヘビイチゴなどとの識別は困難です．今回の実習では，この名前でよいと思います．

ヒロハホウキギク

キク科

☆全草無毛であることが大きな特徴です．水際で目立ちますが，その他の場所にも多く出現します．

ヘラオオバコ

オオバコ科

☆葉柄がないことが特徴です．多摩川ではよく出現します．

マルバヤハズソウ

マメ科

☆ヤハズソウとは葉の先が凹み，軍配状になることで見分けることができます（写真下）．葉を引っ張ると，矢についた羽のようなちぎれかたをします．

メドハギ　マメ科

☆先の台風で，今回の場所のものはほとんどが倒伏しています．3出複葉で，葉が密に付き，よく枝分かれすることが特徴です．

メヒシバ　イネ科

☆至るところでごく普通に見られる植物です．小穂は小さく，花茎に対して寝ているため，オヒシバに比べて花序が貧弱に見えます．

メマツヨイグサ

アカバナ科

☆この場所で，現在見られるものは，ほぼすべてこのようなロゼットの状態です．

メリケンガヤツリ

カヤツリグサ科

☆外来種で，最近は多摩川でも多くなったそうです．全草が非常に硬く，茎や葉はつるつるしています．

ヤエムグラ

アカネ科

☆幼植物を非常に多く見かけます．輪生葉に見えるものは，2枚のみが葉身で，他は托葉が変形したものです．

ヤナギの1種

ヤナギ科

☆水際に多く生育していますが，この状態での同定は難しいです．

ヤナギタデ

タデ科

☆別名ホンタデといい，葉に独特の辛味があります，「蓼食う虫も好き好き」のタデは本種のことです．同定に困ったときは，葉を噛んでみてください．ただ，後から来る辛味なので，噛み過ぎにはご注意．

ヤブガラシ

ブドウ科

☆つる植物で，葉は5つの小葉からなる，鳥足状複葉です．

ヤブジラミ

セリ科

☆今の時期は，若干葉がニンジンに似ています．

ヤブソテツ

オシダ科

☆よく似たオニヤブソテツは，海に近い場所を主な生育地とする種で，本種に比べて葉のクチクラ層が発達しています．

ユウゲショウ

アカバナ科

☆多摩川では非常に多く見かけます．葉の縁が波打ち，葉柄が赤く色づくのが特徴です．

ヨシ　　イネ科

☆「葦（アシ）」は「悪し」に繋がるとして，ヨシと呼ばれるようになったそうです．今回は確認できませんでしたが，よく似たツルヨシは，匍匐茎で栄養繁殖を行うのに対し，本種は地下茎で繁殖することで区別できます．

ヨモギ

キク科

☆至るところでよく見かける植物です．今回は幼植物体も多く見かけました．

文責：杉山昇司　（明治大学農学研究科　応用植物生態学研究室M1）

しっかり時間をかけて製作したものではないので，どこかに間違いがある可能性もあります．
間違いを見つけたら，下記のHPの掲示板などで，遠慮なく教えてください．
よろしくお願いします．

応用植物生態学研究室のHP：http://www.isc.meiji.ac.jp/~seitai/
製作者のHP：http://www.isc.meiji.ac.jp/~cf40209/